

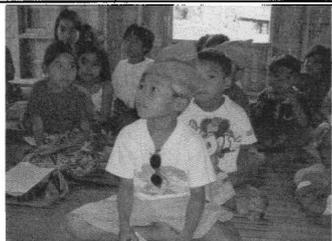
プロジェクトコーナー

「名前」を持つことの大切さを知る

— NIA 助成「先住民族中退児童のフリースクール(モスン教育)」現地責任者チェリルさん 1/17 付メールより —

今とりかかっているのは、卒業を前にした6年生の学習経歴と正しい名前の確認です。以前に受けた教育とモスン学校在籍を合算したものが、教育省の基準に照らして初等教育終了と認証されなければなりません。しかもその際には正しい綴りでの記名が必要です。先住民族の場合、ほとんどの子どもが出生届けを出していません。名前もその時々で好きな名前を使ったりしています。これが将来カレッジに入る時、就職する時に障害となることを知らないのです。今回の教育省への書類提出は、名前確定の絶好の機会であり、その作業を進めているところです。また、先住民族の土地権を守る TILT(Tribal Indigenous Land Trust)担当のモスン教師2名が抜けたので、代わりを探すのが大変でした。1名は臨時にお願いできました。しかし、農業指導兼任ツバツのヌガブツの代わりはおらず、バサグノフォークのエレノアがしばらく兼務します。彼女は今、原生種の陸稲保存のため、地域の母親たち約300人にその栽培を指導していて忙しくしていますが、頑張ってくれるでしょう。

将来のモスン教育自主財源として有望な、山羊飼育に関する嬉しいニュースです。今6匹が妊娠中で2ヵ月後に出産予定です。



低学年の授業風景

鍼灸による治療効果あり

— FIDR 助成「保健ボランティア育成と母子保健プロジェクト」現地責任者ナブサさん 1/22 付メールより —

喜んでください。これまで保健ボランティア研修で推奨してきた化学医薬品に頼らない伝統的治療法の成果が、先日の巡回診療の後確認されました。研修生の実習を兼ねて3時間で31人の患者に対応した巡回診療の結果を、今日村を訪ねて調べてみました。患者たちは口をそろえて楽になったと言っていました。悪くなったというケースはありませんでした。PIHSスタッフも保健ボランティアもこの結果に一層やる気が出てきたようです。

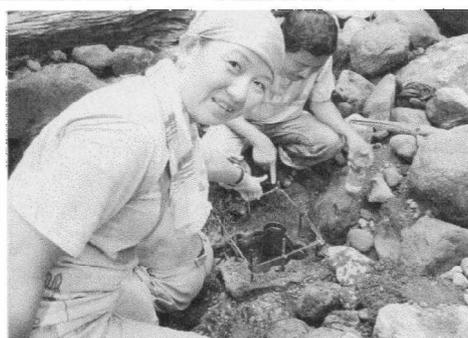
なお、2月には、妊産婦・乳児対象の巡回診療を行う予定です。



安全な飲料水の確保にむけて

— 今井記念海外協力基金助成「簡易水道建設と研修による先住民族の生活改善事業」9月訪問報告 —

このプロジェクトは、山の水源からラマハ村を抜け、20キロメートル離れたラナス村までパイプを敷設します。水源管理を担当するラマハ住民組合のみなさんとミーティング後、水源地に案内してもらいました。村の中心地から水源地までは、だらだらと坂道を登って約1時間、4キロメートルほどです。水源を汚染から守るためコンクリートで周囲を覆うのですが、男性たちはそのための資材を担いでおり、汗だくです。ところが水源地の森に近づくと、日光は木々にさえぎられ、空気はみずみずしくなりました。組合員は、この涵養林を守ることの重要性もセミナーで学んでいます。将来は森を増やすため、もっと木を植えたいとのこと。陸稲→コーン→ピーナッツを輪作をして生



水源を指差す九島。後ろはPFFスタッフ。

計を立てているラマハ村。まだまだ足りないものはたくさんあります。このプロジェクトを通して協力体制を築きながら、ゆっくりと村の発展を見守りたいと思います。「私たちは労働を分け合っています。日本のみなさんと経験を分け合いたいです」と組合議長のダニーさんからメッセージをいただきました。



建設に汗を流す組合員。